戦争をまなざす

永田円了

War About

戦争は今この瞬間も、どこかで起きている。紛争の起きている地域は、約 60 カ所（主にアフリカ、アジア）。人間は、いつこの争いのカルマから解放されるのだろうか。自然災害の世界の死者数は、毎年約 10 万人になるという（1970 年～2008 年の平均）。20 世紀（この 100 年間）での戦争死者数は、1 億 652 万人にものぼり、自然災害の死者数の 10 倍を超える。今もウクライナとロシア、ハマスとイスラエルの戦闘で、すでに数千人の犠牲者がでている。

さて今回は、人間最大の悪といわれるこの戦争を、複数の視点から検証してみたい。

人間を戦争に向かわせる意外な要因

なぜ人間は、自らの命を危険にさらしてまで戦争に突き進んでしまうのか。戦争に関する世界の論文の中で、注目を呼んでいるコトバがある。人間の絆を深めるホルモンとされるオキシトシンの存在である。

本来愛情ホルモンと言われるオキシトシンの負の側面が証明されつつあるのである（ラットの実験、トロッコ実験など）。オキシトシンは私たちを協力的にするだけではなく、攻撃的にもする力があるという。ただし、その攻撃性は、敵対心からくるものではなく、仲間を守りたいと思うが故に、仲間以外には線引きして攻撃的になってしまうというのである。

人間本来、暴力的なのか

人間の本来の性格は、攻撃的なのか、平和的なのか。これまでに多くの学者によって議論されてきた。その答えは、人間に一番近いとされるゴリラの生態で明らかになった。ゴリラが発見されてからの 100 年以上も、ゴリラは狂暴だというイメージでとらえられてきた。しかし、実はゴリラは実に平和的な生活をしていることが分かっている（人類学者・山極壽一）。人類が二足歩行をしたのは 700 万年前。槍などの狩猟道具を使い始めたのは、50 万年前。そして、その武器を同じ人間に向けたのは、わずか 1 万年前のこと。つまり、人類が暴力的になったのは、長い数 100 万年の人類史上、つい最近のことなのである。

ユングのラストメッセージ

すべてのことは、「私たちの頭の中で起こっている」とユングは言う。「‥私たちの頭の中で起こっていることを捉えることが大事。何故なら、戦争を起こす危険性は、まず頭の中で始まるからである」「危険性をもった頭の中が一番危ないのです。悲しいかな、人はこのことにまったく気づいていない。人の内側でなにが起こっているかを知ることなしに、戦争を語ることなかれ」と。

＜事 例＞

E テレ「地球は放置しても育たない、争いはなぜ起こる」2023/11/10
NHK スペシャル「ヒューマンエイジ人間の時代・なぜ殺し合うのか」2023/8/15
NHK アカデミア 山極壽一（人類学者）ゴリラからみる暴力と戦争の起源 2022/10/25
映画『2001 年宇宙の旅』スタンレイ・キューブリック監督 1968 年制作
米国ラトガース大学での実験、相手を思いやる心、その条件とは、、
ETV 半藤一利「戦争を解く」2023/9/2　軍備 vs. 非武装
ユングのラストメッセージ、戦争を起こす危険性は、まず頭の中で始まる
大江健三郎、大きな和解も、小さないざこざの和解も同じ
クロ現「ストーカー加害者の告白 殺意に至る闇」
塩野七生・五木寛之の対談「戦争は人間の欲望を単純化する」
映画『二百三高地』1980 年上映、日露戦争を描く（1904 年・明治 37）
歌・さだまさし「防人の歌」軽井沢音楽祭 1980 年